

学校安全推進のための
教職員向け研修・訓練
実践事例集

令和3年6月





目 次

■ はじめに -----	1
■ 実践的な研修・訓練の位置付けと進め方 -----	2
【実践事例1】ハザードマップと地図を用いた研修 -----	3
【実践事例2】学校版タイムラインづくり -----	8
【実践事例3】卓上訓練の活用 -----	17
【実践事例4】マップ・マヌーバーの活用 -----	21
【実践事例5】状況判断（ケーススタディ）の活用 -----	26
【実践事例6】ASUKA モデルの活用 -----	32
【実践事例7】実践的な不審者対応訓練 -----	38
【実践事例8】実践的な避難訓練等の工夫例 -----	42





はじめに

事故・災害等の発生時に児童生徒等の安全を確保するためには、教職員が危機管理マニュアル等に基づいて、迅速・的確に行動することが不可欠です。いざというときにこれを実現するため、教職員は、あらかじめ研修・訓練などで必要な知識等を身に付けるとともに、それを実践できるようにしておかなければなりません。

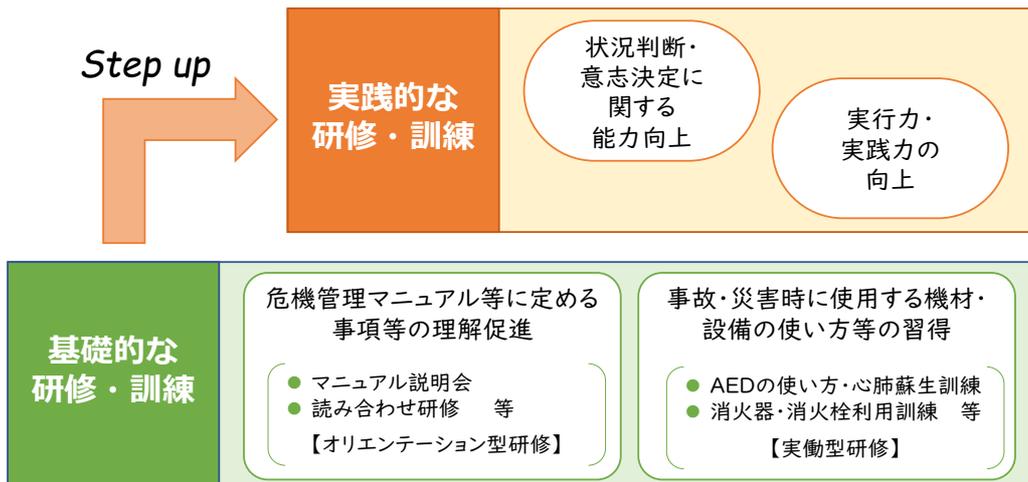
このため各学校では、教職員を対象として、学校安全に関わる校内研修・訓練等を実施しています。しかしながら、その内容・方法が形式的なものとなっていたり、マンネリ化していたりして、必ずしも実践的な研修・訓練となっていない場合が少なくありません。

そこで本冊子では、学校現場で活用できる実践的な教職員向け研修・訓練の方法について、下記の具体例を紹介し、各学校で研修・訓練を企画・運営する際の参考としてください。

本冊子で紹介する 研修・訓練の実践事例	概 要
ハザードマップと地図を用いた研修	自校周辺の地形を踏まえてハザードマップを読み取ることで、災害リスクを理解できる力を高める演習手法の活用例。
学校版タイムラインづくり	イメージトレーニング型訓練と災害時の対応を主体別・時系列に整理した「タイムライン」作成を組み合わせた演習手法の活用例。
卓上訓練の活用	提示されたシナリオを基に、危機管理マニュアル等に基づいて机上で模擬的に意思決定等を行う訓練手法の活用例。
マップ・マヌーバーの活用	地図・図面上で個人・グループ等を表す駒を動かしながら、時間経過に沿って災害時の行動を確認する訓練手法の活用例。
状況判断（ケーススタディ）の活用	「状況判断の思考過程」を用いて、状況の分析や取るべき対応案の比較考量を行う思考・判断の訓練手法の活用例。
ASUKA モデルの活用	課外活動中の死亡事故を基に開発された救命処置に関する研修テキストや実践的な訓練手法の活用例。
実践的な不審者対応訓練	大阪教育大学附属池田小学校で実施されている、訓練前後の話し合いを重視した不審者対応の訓練手法例。
実践的な避難訓練等の工夫例	各地で実施されている避難訓練等で、より実践的な訓練とすることを目的に取り入れられた様々な工夫例。

実践的な研修・訓練の位置付けと進め方

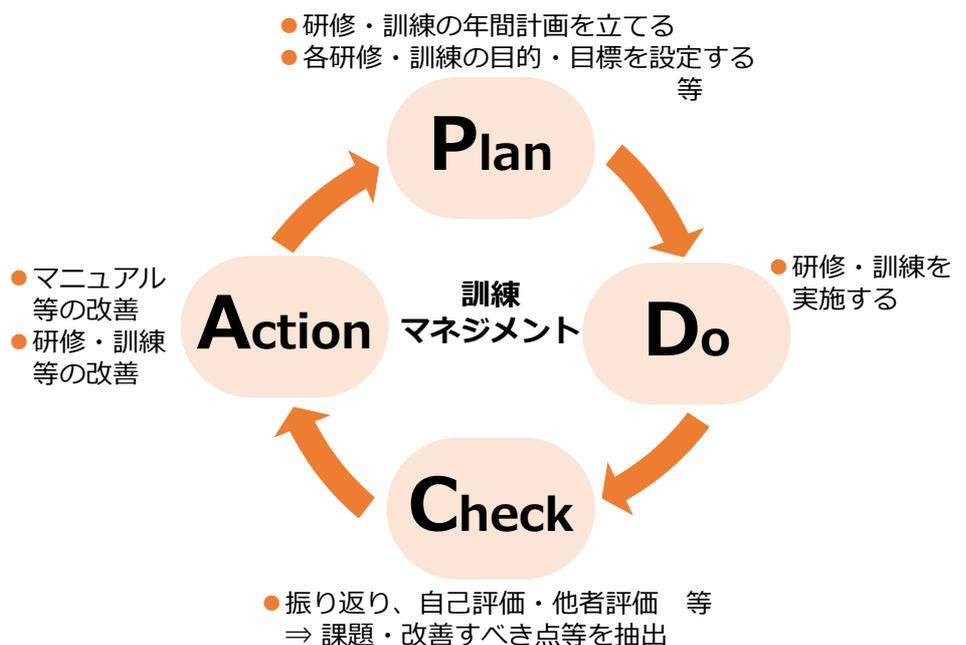
研修・訓練が実践的であることは大切ですが、その前には、基礎的な研修・訓練を通して実践的な対応のベースとなる知識や技術を身に付けておく必要があります。例えば、まず机上で行うオリエンテーション型の研修や、個別の機材・設備等の使用方法等を学ぶ実働型研修を実施した上で、より実践的な研修・訓練を実施するというように、様々な手法を組み合わせることで計画的に研修・訓練を実施しましょう。



また、研修・訓練を行う際には、その目的や到達目標を明確にする必要もあります。実践的な研修・訓練の場合、その目的は、危機管理マニュアル等で定めている事項が円滑に実施できるかどうか確認することだけではありません。現状のマニュアル等に定める計画・体制などの課題を明らかにし、これを改善することも目的の一つとなります。そして、それを実現するためには、振り返りや自己評価・他者評価などを通じて、研修・訓練の結果を評価することが不可欠です。

また、この評価を基に、次の研修・訓練の改善へとつなげることも重要です。

研修・訓練を企画・運営する際には、右図のようなPDCAを回して進める「訓練マネジメント」という考え方を意識すると良いでしょう。



ハザードマップと地図を用いた研修

■ ハザードマップと地図を用いた研修とは

自校に起こりうる災害リスクを“自分ごと”として捉え、災害時の避難行動を想定するためには、地域の災害リスクを深く理解する必要があります。ここでは、自校周辺の地形を踏まえてハザードマップを読み取ることで、災害リスクを理解できる力を高める研修をご紹介します。ハザードマップは、学校や学校周辺の災害リスクを確認する上で最も重要な資料です。また、地形とハザードマップの関係を理解することは災害リスクのより深い理解につながります。

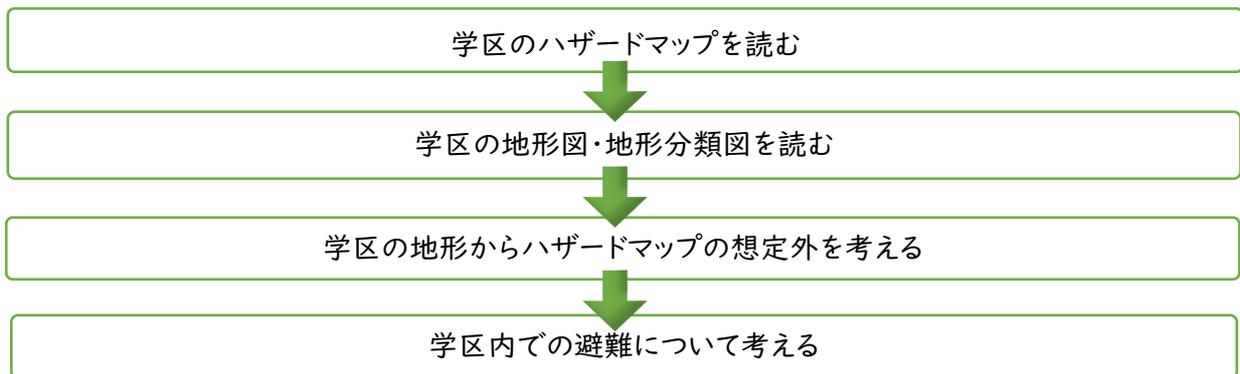
この研修では、まず、ハザードマップを読み、地域に影響をおよぼす自然のハザードを確認します。次に、地形図や地形分類図を参考にしながら、地形等の特徴から起こり得る災害リスクの種類等を考えます。

ハザードマップは、例えば1日の雨量がどのくらいか、どの川が氾濫するか等の前提条件が設定され、それに基づき作成されています。そのため、この前提条件以外で災害が発生した場合、想定外の被害が発生する可能性があります。そこで本研修では、地形ごとに発生する可能性のある災害リスクを検討した上でハザードマップと比較し、ハザードマップの想定外を検討し、具体的に大雨時の安全な避難先・避難ルートなどの検討を行います。こうした研修結果を反映させることにより、自校の防災マニュアル、避難訓練や防災教育をより地域の実情にあったものにすることができます。

《この研修のねらい》

- ◆ 地形図・地形分類図やハザードマップを基に自校の立地する地域の災害リスクを理解する。
- ◆ 地形を基にハザードマップに記載されていない想定外の災害リスクを検討する。
- ◆ 地域の災害リスクを踏まえた避難について検討する。

■ 基本の流れ



■ 実施方法

【1】準備

- 研修教材:東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センターのウェブサイトにて、以下の研修教材が公開されていますので、活用しましょう。

✓ 解説や演習が含まれたスライド

✓ スライドに沿って構成され視聴しながら研修を進めることのできる研修動画

✓ 研修の際に書き込むことのできるワークシート[様式1]

⇒研修教材にアクセスするためにはパスワードが必要です。問い合わせの上、パスワードを取得しましょう。教材の利用方法やパスワード取得方法の詳細はウェブサイト上に記載されていますので、ご確認ください。

⇒ガイダンス用の動画は、ウェブサイト上にてパスワードなしで閲覧できますのでご覧ください。

[オンライン講座:学区の地図を利用した災害リスクの理解 URL]

<http://drredu-collabo.sakura.ne.jp/ja/online>

- ハザードマップ(浸水、土砂災害、津波 等):各市町村において、防災担当部署などで配布していたり、ウェブサイトに掲載していたりしますので、問い合わせてみましょう。また、国土交通省「ハザードマップポータルサイト」では、様々なハザードの被害想定や道路防災情報、土地の特徴を重ねて表示することのできる「重ねるハザードマップ」と、各市町村のハザードマップへのリンクが掲載されている「わがまちハザードマップ」の両方を閲覧することができます。

[ハザードマップポータルサイト URL]

<http://disaportal.gsi.go.jp/>

- 地形図・地形分類図:国土地理院が作成しています。紙地図として購入できるほか、「地理院地図」ウェブサイトから地形図・地形分類図を閲覧することも可能です。

[地理院地図 URL]

https://maps.gsi.go.jp/index_m.html

- 市町村の緊急避難場所・避難所リスト(学校区該当箇所)：市町村が地域防災計画の中で定めています。市町村のウェブサイト又は地理院地図ウェブサイトへのアクセスにより、入手することができます。
- 地理院地図ウェブサイトの閲覧機材(PC など)：地形図・地形分類図を確認する際に使用します。
- 研修動画の閲覧機材(PC など)：映像を用いた研修を行う際に使用します。地形図・地形分類図などを確認する機材とは別に用意し、大型ディスプレイやスクリーンに投影して参加者全員で見られるようにするとよいでしょう。
- 付箋・ペン等

【2】進め方 -----

[学区のハザードマップを読む]

- それぞれのハザードマップについて、方位と縮尺を確認しましょう。
- 学校と自分の知っている場所を確認しましょう。
 - ✓ グループで研修を行う場合は、ここで自己紹介をしながら自分の知っている場所をグループメンバーに発表しましょう。
- 学校や学区のハザードの種類や程度等について、ハザードマップから読み取り、ワークシートに記入しましょう。

[学区の地形図・地形分類図を読む]

- 自校や学区周辺の地形図から読み取れることをワークシートに書き込みましょう。
- 自校や学区周辺の地形分類図から読み取れることをワークシートに書き込みましょう

[学区の地形からハザードマップの想定外も考える]

- ハザードマップもしくはハザードマップの掲載されているウェブサイトを見て、想定的前提条件を理解しましょう。
- 想定外の場合を考え、ワークシートに書き込みましょう。
 - ✓ 地形図、地形分類図、ワークシート、記憶や経験、災害の歴史から読み取りましょう。

[学区内での避難について考える]

- 各市町村長が指定する緊急避難場所・避難所に学校が指定されているかどうか確認しましょう。また、どんな災害に対する指定かを確認しましょう。
- 災害の種類による、指定/非指定の理由をハザードマップや地形を踏まえて、考えましょう。
 - ✓ 理由が分からない場合は市町村にたずねましょう。
- 学校の近くで指定されている施設についても、同様に調べましょう。

- 災害時（例えば大雨時）における学校から緊急避難場所までのルートを複数考え、それぞれのルートの特徴（利点や欠点）をワークシートに書き込みましょう。

【3】実施のポイント

- ハザードマップ、地形図、地形分類図を参考にしながら、最短ルートよりもより安全なルートを考えるようにしましょう。
- 研修の結果をふまえて、自校の防災マニュアルの見直しを行いましょう。加えて、見直した防災マニュアルを基に、避難訓練、防災教育についても改めて検討しましょう。

■ 様式・素材例

〔様式1〕ワークシート

〈出典：東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センター，2020〉

1	ハザード	ハザードマップをみて、学区内でどんな災害が起こりうるのか、記述してください。	2	地形	地形図、地形分類図から自分の学区の地形の特徴を具体的に記述してください。
	洪水				
	土砂災害				
	津波				
3	想定外	ハザードマップの想定以上の場合（降水量など）、ハザードマップの想定外の場合（支流や内水氾濫）、ハザードマップ、地形図、地形分類図を基に、自分の学区の「想定外」について考えて、記述してください。	4	緊急避難場所／避難所	学校が緊急避難場所（逃げる）や避難所（泊まる）に指定されているかどうか、どの災害に対するものなのか、その理由を含めて、記述してください。
5	避難	ある地区から大雨時に緊急避難場所まで避難することを想定して、複数の選択肢について、特徴や欠点について記述してください。			

【出典・参考文献】

- 村山良之「ハザードマップと地形を読む―学校防災の自校化―」, 第44回全国学校安全教育研究大会・東京都学校安全教育研究大会 大会紀要, 全国学校安全教育研究会・東京都学校安全教育研究会(2020)
- 村山良之・松多信尚「ハザードの種別と地形理解、災害リスク」, 小田隆史編著『教師のための防災学習帳』, 朝倉書店(2021)
- 宇根寛・村山良之「地域の災害リスクをどう教えるか―地形を踏まえてハザードマップを読む」, 科学, 91(5), 444-448(2021)
- 小田隆史・桜井愛子・村山良之・佐藤健・北浦早苗・加賀谷碧「教員の地図リテラシー育成とハザード理解に向けた学校防災研修―宮城県石巻市における試行から」, 安全教育学研究, 20(1), 27-36(2020)
- 東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センター「オンライン講座 学区の地図を活用した災害リスクの理解」(2020)

学校版タイムラインづくり

■ 学校版タイムラインとは

「タイムライン」とは、防災に関する関係機関が連携して災害時に発生する状況をあらかじめ想定し共有した上で、「いつ」「誰が」「何をするのか」に着目して、防災行動計画とその実施主体を時系列で整理したものです。この「タイムライン」を、学校を軸において、家庭や地域、教育委員会等が連携して、いざというとき「いつ」「誰が」「何をするのか」を時系列で整理した学校版の防災行動計画にあたるものが「学校版タイムライン」です。この「学校版タイムライン」は、学校の危機管理マニュアルのうち「事前の危機管理」の計画として、活用することが可能です。

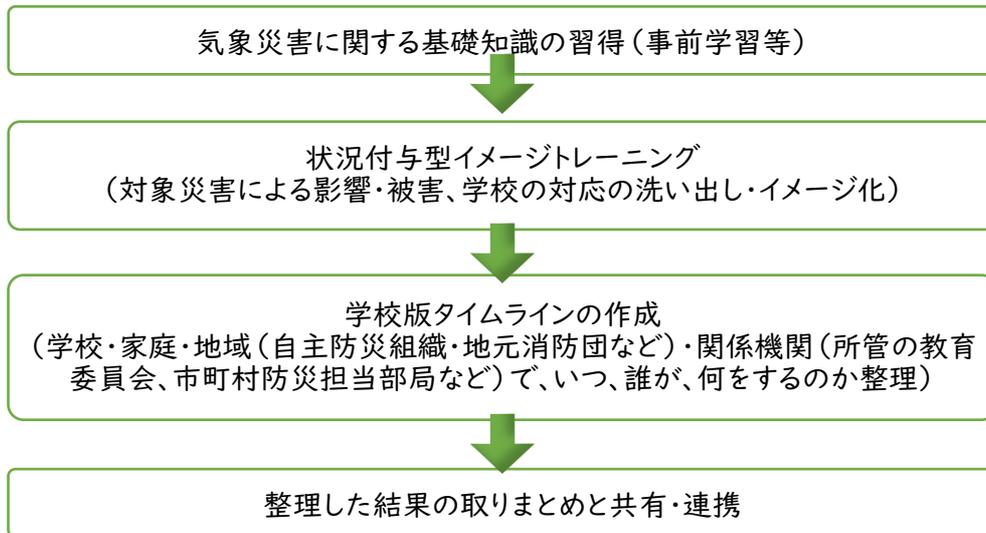
例えば、もし通信手段が途絶えたとしても、「学校版タイムラインづくり」により「いつ」「誰が」「何をするのか」を「見える化」して共有しておけば、いざというとき、それぞれが先を見越しながら適切に対応することができますし、災害対応時にチェックリストとしても活用可能です。地域の関係機関と連携し、すでに各機関が作成しているタイムラインを参考に学校版タイムラインを作成することも有効です。

ここでは、学校版タイムラインを作成する前に、まず第一段階として状況付与型イメージトレーニングを行う方法を紹介しています。状況付与型イメージトレーニングを実施することで、防災や災害に関する基本的知識を学ぶことに加え、台風や大雨といった災害のイメージを持ちつつ学校で予想される危機と対応を洗い出すことが可能となり、より実践的・実効的な学校版タイムラインを作成することができます。

《この研修・訓練のねらい》

- ◆ 「状況付与型イメージトレーニング」を実施することで、台風や大雨災害で予想される地域や学校の危機をイメージし、具体的な対応を検討する。
- ◆ 「学校版タイムライン」を作成することで、「いつ」「誰が」「何をするのか」を「見える化」して共有することで、いざというときにそれぞれが先を見越しながら適切に対応できるようにする。

■ 基本の流れ



■ 実施方法

【1】準備

[基礎知識の習得(事前学習等)向け準備]

- 地域のハザードマップ(避難所等も分かるもの)
- 気象災害に関する基礎知識に関する資料:下記のサイトなどを活用するとよいでしょう。
 - ✓ 気象庁 e-ラーニング「大雨のときにどう逃げる」
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jma-el/dounigeru.html>
 - ✓ 気象庁ウェブサイト「台風や集中豪雨から身を守るために」
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/ame_chuui/ame_chuui_p1.html
 - ✓ 気象庁ウェブサイト「防災気象情報と警戒レベルとの対応について」
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/alertlevel.html>
 - ✓ 政府インターネットTV「大雨や台風から命を守る 進化した気象警報&危険度分布」
<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg14989.html>
 - ✓ 国立研究開発法人防災科学技術研究所 自然災害情報室「防災基礎講座:基礎知識編」
https://dil.bosai.go.jp/workshop/01kouza_kiso/index.html
「気象災害」「土砂災害」

[状況付与型イメージトレーニング・学校版タイムライン作成向け準備]

- 付与情報[素材1、素材2]:イメージトレーニング(ワークショップ)の際に各グループに与える情報です。以下のような手順で検討して準備しましょう。

- ✓ 地域の災害リスクを把握して、学校版タイムラインで対象とする災害を設定します。
⇒ 地域の災害リスクや、想定される気象災害や水害の状況について、事前に行政の担当部署や地元気象台等の関係機関に助言等を受けておくといでしょう。
- ✓ 対象とする災害に応じて、3段階（フェーズ1～3）に分けた付与情報を作成します。
⇒ 台風接近に関する気象情報は、地元の気象台と連携して、学校所在地域で過去に発生した台風災害の例などを入手するとよいでしょう。
- 模造紙、付箋（ピンク色、青色、黄色）、油性ペンなど
- 「学校版タイムライン」整理シート[様式1]：付箋に記入した学校の対応を貼りますので、模造紙などに大きく印刷するか、ホワイトボードなどに様式の枠を書き込んでおくといでしょう。

【2】進め方

[気象災害に関する基礎知識の習得]

- 気象災害に関する基礎的な知識を獲得するために、上記で紹介した気象庁等のウェブサイトを基に訓練企画者が説明を行ったり、事前に参加者がそれぞれ自分で各サイトを閲覧して事前学習を行ったりして、以下のような事項を把握しておきましょう。
 - ✓ 大雨の際に発信される防災気象情報について
 - ✓ 気象情報を確認できるウェブサイトなどの媒体について
 - ✓ 防災気象情報の伝達方法について（国や自治体から出される情報の伝達手段）
- 以下のような方法で、地域の災害リスクや、学区内の状況（河川・低地・がけ地などの地理的な状況、通学路、児童生徒等の自宅や避難場所・避難所の位置等）を把握しておきます。
 - ✓ ハザードマップを確認
 - ✓ 学区内のフィールドワークの実施
 - ✓ 学区内の見回り時に災害発生をイメージ

[状況付与型イメージトレーニングの実施]

- 数名ずつのグループに分かれて、状況付与型イメージトレーニングを実施します。
- まずフェーズ1で提示された情報を基に、各自、地域でどのような危険や危機が考えられるか、また学校としてどのような準備や対応などをしておけばよいかを考えて、以下のとおり付箋に記入します。
 - ✓ 考えられる危険や危機→ピンク色の付箋
 - ✓ 学校の行うべき準備や取るべき対応→青色の付箋
 - ✓ 懸念されることや検討が必要なこと→黄色の付箋
- 各自の検討が終わったら、それを基にグループで話し合い、模造紙に取りまとめます。
- 上記と同様に、フェーズ2、フェーズ3についても、提示される情報を基に、その後の対応を時系列で検討し、話し合いを実施します。

- 各グループから検討結果の発表を行って、全体で討議します。グループによる対応の違いを確認し、対応の理由や根拠などについて議論するとよいでしょう。

[学校版タイムラインづくり]

- グループ別に、イメージトレーニング型訓練で取りまとめた情報を基に、縦軸に時間軸を置き、横軸に以下の情報や対応を入れる欄を設けた表に付箋で整理する形で、学校版タイムラインを作成します。
 - ✓ 気象情報等
 - ✓ 市町村からの防災情報等
 - ✓ 学校の対応
 - ✓ 家庭・地域の対応
- 学校の対応や、家庭・地域の対応については、各主体が「いつ」「何をやる」のかを考えて、時間軸に沿って整理していきます。その後、各主体間の動きに整合性があるかなどを確認していくとよいでしょう。
- グループ別の検討が終わったら、各グループから検討結果を発表し、全体で討議しましょう。
⇒ 全グループの検討結果を統合して、自校の「タイムライン」として取りまとめ、以下のように活用することが望まれます。
 - ✓ 自校の危機管理マニュアル等の中に、タイムラインを組み込む。
 - ✓ 児童生徒等や保護者、市町村の防災担当部署、学校設置者、その他の関係機関に共有する。

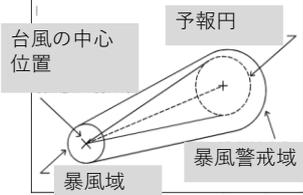
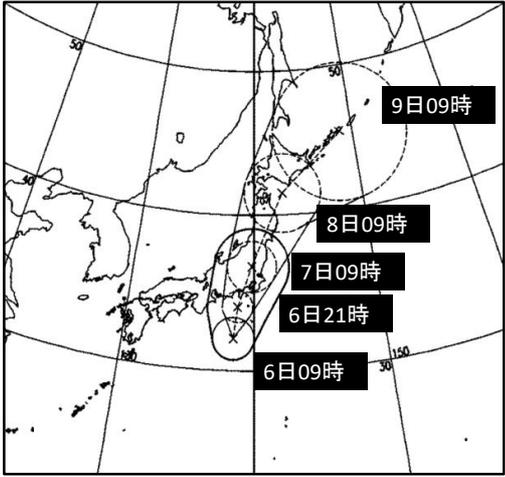
【3】実施のポイント -----

- 前半のイメージトレーニング型研修で十分に議論をすることで、後半の学校版タイムラインづくりがスムーズに進むようになります。
- 現在、多くの市町村や防災関係機関では、タイムラインづくりが進められています。地域の関係機関で作成されたタイムラインがあれば、それを参考資料として手元に置きながら学校版タイムラインを作成するのが有効でしょう。
- 教職員のみならず、家庭や地域、消防署、教育委員会等関係機関や団体を交えて実施すると、事前の連携にもつながります。また、台風や水害等への対応は一つの学校にとどまるものではありませんから、中学校区等の単位で、地域の複数の学校が一緒になってこの研修を実施することも有効です。
- 完成した「学校版タイムライン」に基づき、学校の防災体制の見直し・強化を図ることが求められます。

■ 様式・素材例

[素材1] グループワークで付与する情報の例 (1) 台風接近の例

〈出典：岩手大学地域防災センター（2018）を基に一部改変〉

フェーズ	情報の内容																																																																																																	
<p>フェーズ 1</p>	<p style="text-align: center;">《台風の進路・予報円などの図》</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>【フェーズ1】</p> <p>台風第9号は、7日の明け方には東海地方から関東地方に上陸し、岩手県には、7日夕方から8日朝にかけて接近、または通過するおそれがあります。</p> <p>岩手県では、8日にかけて、雷を伴って非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある見込みです。</p> <p>暴風、高波、高潮、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒してください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>予報円</p>  <p>台風の中心位置</p> <p>暴風域</p> <p>暴風警戒域</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>9月6日(水) 12時 台風に関するニュースです。</p>  <p>※9月7日(木)運動会総練習 9月9日(土)運動会</p> </div> </div> </div>																																																																																																	
<p>フェーズ 2</p>	<p>• △△日朝5時、●●地方気象台から本町に大雨（土砂災害）警報、暴風警報が発表されました。</p> <p style="text-align: center;">《発表中の警報・注意報等及び今後の推移に関する図》</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>【フェーズ2】</p> <p>9月7日(木)朝7時 盛岡地方気象台からの情報です。</p> <p style="text-align: center; color: red;">中部市:大雨警報(土砂災害、浸水害)、洪水警報発表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">発表中の警報・注意報等の種別</th> <th colspan="9">今後の推移(警報級 注意報級)</th> <th rowspan="2">備考・関連する現象</th> </tr> <tr> <th colspan="3">7日</th> <th colspan="3">8日</th> <th colspan="3">備考</th> </tr> <tr> <th></th> <th>6-9</th> <th>9-12</th> <th>12-15</th> <th>15-18</th> <th>18-21</th> <th>21-24</th> <th>0-3</th> <th>3-6</th> <th>6-9</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="background-color: red; color: white;">大雨</td> <td>1時間最大雨量(ミリ)</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>30</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(浸水害)</td> <td style="background-color: red;"></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td>浸水警戒</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(土砂災害)</td> <td style="background-color: red;"></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td>土砂災害警戒</td> </tr> <tr> <td style="background-color: red; color: white;">洪水</td> <td>(洪水害)</td> <td style="background-color: red;"></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td>氾濫</td> </tr> <tr> <td style="background-color: yellow;">雷</td> <td></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td>竜巻、ひょう</td> </tr> <tr> <td style="background-color: yellow;">強風</td> <td>風向風速(矢印・メートル)</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>以降も注意報級</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">どう対応しますか?</p> </div>	発表中の警報・注意報等の種別	今後の推移(警報級 注意報級)									備考・関連する現象	7日			8日			備考				6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9		大雨	1時間最大雨量(ミリ)	50	50	50	50	30	20				(浸水害)									浸水警戒		(土砂災害)									土砂災害警戒	洪水	(洪水害)									氾濫	雷										竜巻、ひょう	強風	風向風速(矢印・メートル)	11	15	15	15	15	15	15	11	11	以降も注意報級
発表中の警報・注意報等の種別	今後の推移(警報級 注意報級)									備考・関連する現象																																																																																								
	7日			8日			備考																																																																																											
	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9																																																																																									
大雨	1時間最大雨量(ミリ)	50	50	50	50	30	20																																																																																											
	(浸水害)									浸水警戒																																																																																								
	(土砂災害)									土砂災害警戒																																																																																								
洪水	(洪水害)									氾濫																																																																																								
雷										竜巻、ひょう																																																																																								
強風	風向風速(矢印・メートル)	11	15	15	15	15	15	15	11	11	以降も注意報級																																																																																							

フェーズ 3

《土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）》

【フェーズ3】 エリアメールで、情報が入りました。

9月7日（木）10時55分、中部市に対して、土砂災害警戒情報が発表になりました。

土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）
9月7日11時00分

大雨警報(土砂災害)の危険度分布

- 極めて危険【警戒レベル4相当】
- 非常に危険【警戒レベル4相当】
- 警戒【警戒レベル3相当】
- 注意【警戒レベル2相当】
- 低
- 今後の情報等に留意

文部科学省 気象庁 Japan Meteorological Agency

[素材2] グループワークで付与する情報の例（2）線状降水帯による突然の大雨の例

〈出典：岩手大学地域防災センター（2018）を基に一部改変〉

フェーズ 1

情報の内容

- 朝から降水が始まり、降水が強まってきました。
- このため、盛岡地方気象台は、8時45分に〇〇地域に大雨警報・洪水警報を発表し、9時44分には△△地域に大雨警報・洪水警報を発表しています。
- このときの1時間最大雨量の予想は60ミリでした。

《発表中の警報・注意報等及び今後の推移に関する図》

【フェーズ1】

10月9日（水）9時44分 盛岡地方気象台からの情報です。

中部市：大雨警報（土砂災害、浸水害）、洪水警報発表

中部市 発表中の 警報・注意報等の種別	今後の推移(■警報級 □注意報級)								備考・ 関連する現象	
	12日				13日					
	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9	9-12	
大雨 1時間最大雨量（ミリ）	60	60								
（浸水害）										浸水警戒
（土砂災害）										土砂災害警戒
洪水 （洪水害）										氾濫
雷										竜巻、ひょう

児童・生徒たちは、登校しています。どう対応しますか？

文部科学省 気象庁 Japan Meteorological Agency

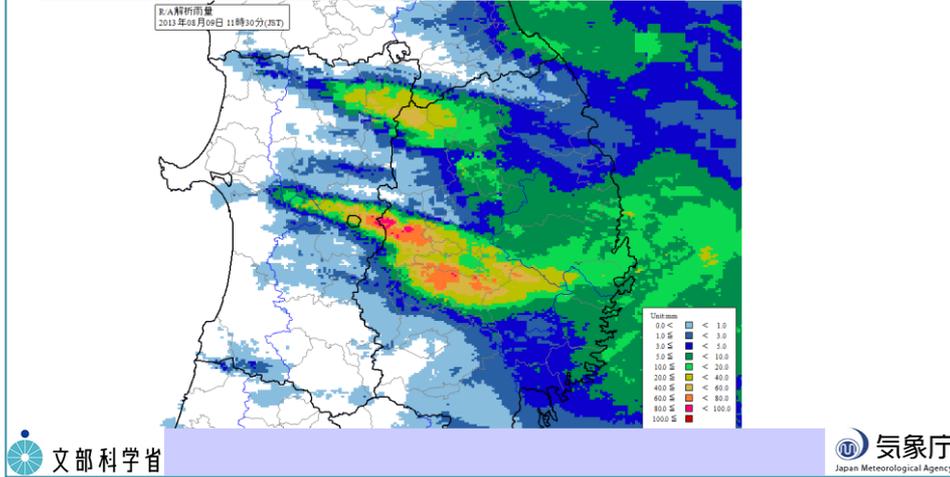
フェーズ
2

《降雨状況（解析雨量・高解像度降水ナウキャスト）に関する図》

【フェーズ2】

10月9日（水）11時55分に、
記録的短時間大雨情報が発表されました。

岩手県記録的短時間大雨情報 第1号
10月9日11時55分 盛岡地方気象台発表
11時30分岩手県で記録的短時間大雨
中部市付近で約100ミリ



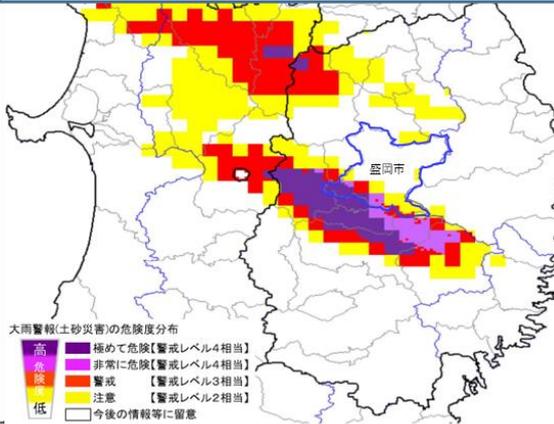
フェーズ
3

《キキクル（危険度分布）の図》

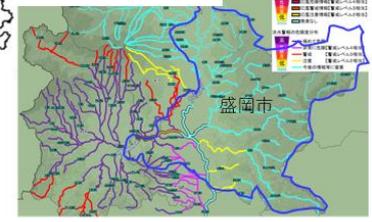
【フェーズ3】

10月9日（水）12時05分には、中部市に対して、土砂災害警戒情報（第4号）
が発表されています。
13時00分には雫石川洪水予報（氾濫警戒情報）が発表されています。
13時00分のキキクル（危険度分布）を確認しました。

土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)
10月9日(水)13時00分

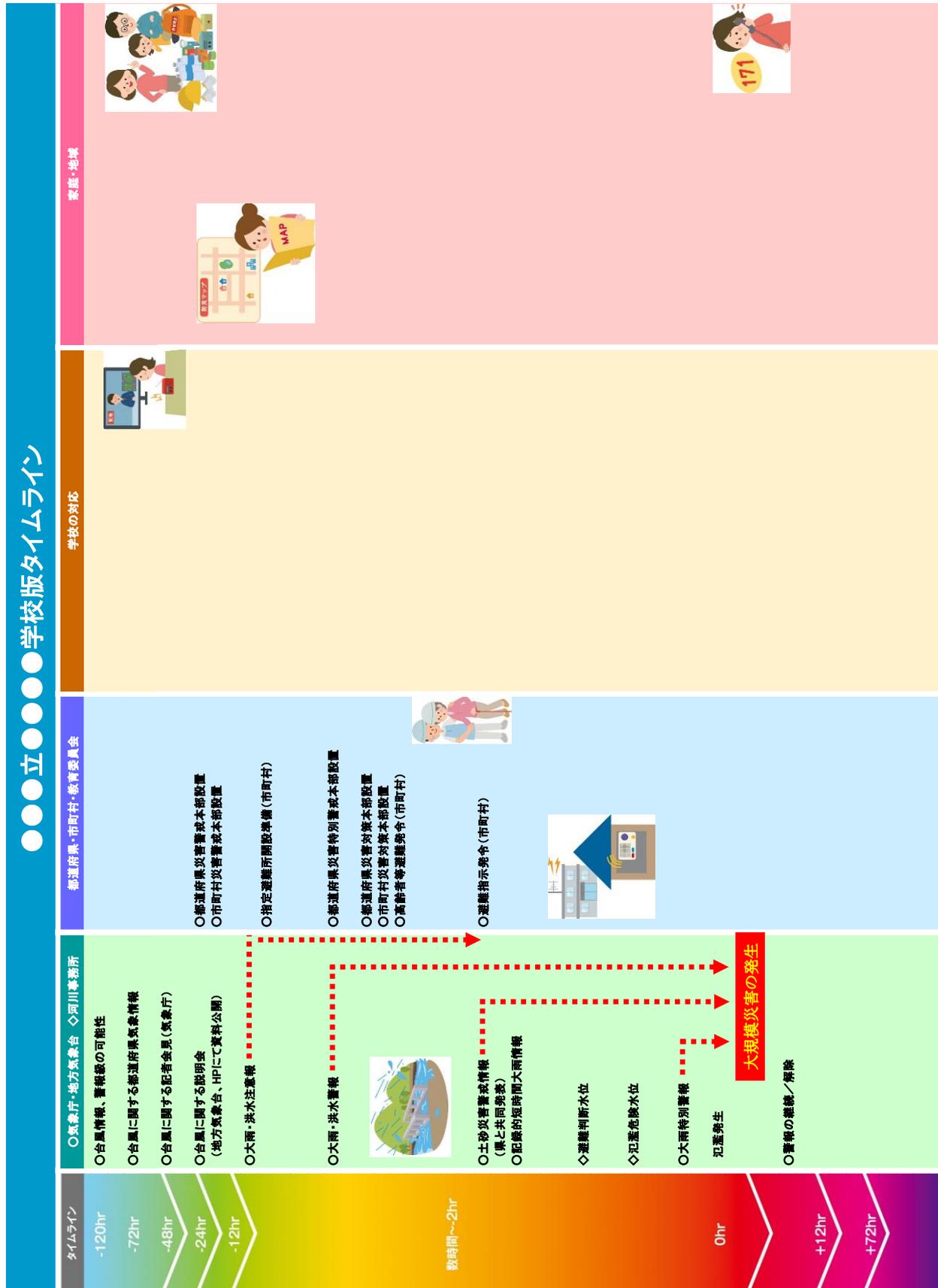


洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)
10月9日13時00分



[様式1] 学校版タイムラインフォーマットの例

〈出典：岩手大学地域防災センター（2018）を基に一部改変〉



【出典・参考文献】

- 岩手大学・岩手県教育委員会・岩泉町「防災教育教材 台風・大雨から身を守る!」(2018)
- 岩手大学地域防災研究センター「学校用参考リーフレット No.2 2016 年台風第10号豪雨災害の教訓を踏まえ『学校版タイムライン』作成について」(2018)
- 森本晋也、越野修三、蒔苗仁、鈴木智香、小松山浩樹「防災教育教材の開発と教員研修の充実に向けて～連携・協働による岩手県防災教育研修会の取組を通して」, 岩手大学大学院教育学研究科研究年報 第3巻 p.111-p.124(2019)
- 岩手県教育委員会「中部教育事務所復興教育研修会講義資料」(2020)

※付与情報は盛岡地方気象台が作成

【実践事例3】

卓上訓練の活用

■ 卓上訓練とは

卓上訓練は「危機的状況をふだんどおりストレスのない状況下で模擬訓練すること。参加者は危機管理マニュアル等に基づいて、問題を調べ、それを解決するように、議論を導く」訓練です。

卓上訓練には、下記のような長所があります。

- 少ないストレスで行うことができるので、参加者にとって負担が少ない。
- シミュレーションを通じて自分たちの意思決定過程を確認することで、実際の場面でのよりよい意思決定が可能。
- 参加者間のコミュニケーションが高まり、各々の役割や責任を確認することができる。
- 短時間で訓練できるので、複数の危機管理のテーマを同時に取り上げることが可能。
- 頻繁に行うことができるので、マニュアルの見直しなどを繰り返し行うことが可能。
- 特別な場所や道具を必要とせず、低予算で行うことができる。

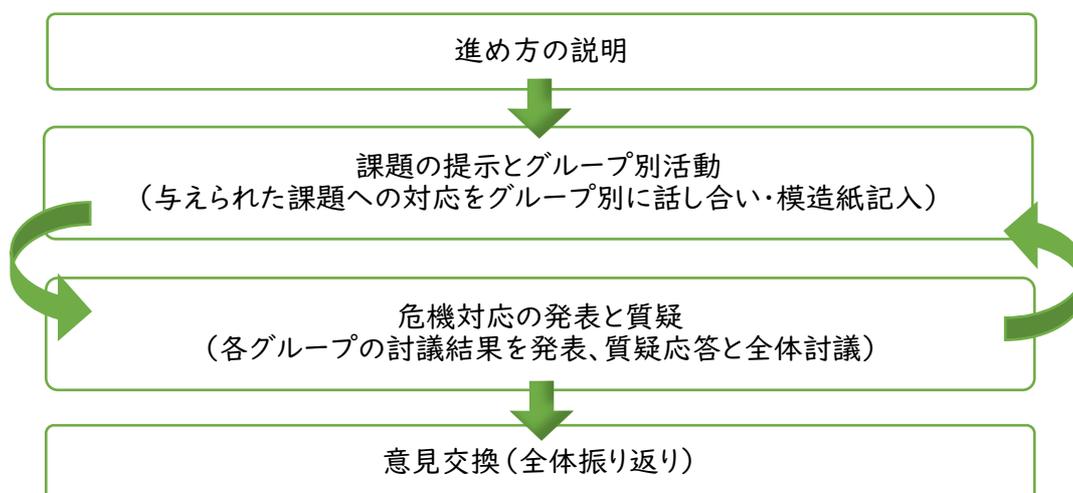
児童生徒を含めた避難訓練やマニュアルを活用した実働訓練はもちろん重要であり、可能な限り繰り返し実施することが効果的です。しかし、このような訓練は準備に多くの時間を割くことになり、学校で頻繁に行うことは、教職員にとって大きな負担となってしまいます。そのため、日常的に起こる些細な問題から大きな災害まで、様々な状況で迅速かつ適切な意思決定が要求される場合に備えて、補完的に卓上訓練のような簡便な訓練が必要となります。

卓上訓練は、詳細なシナリオを用意して、危機発生以降の時間経過に応じて複数の課題を提示し、その課題に対して参加者が意思決定を繰り返す方法が一般的です。しかし、ここで紹介する卓上訓練を用いた教職員研修では、学校における数多い課題に対応するために方法を簡便化し、一つの課題のみを提示して行います。

《この研修・訓練のねらい》

- ◆ 危機発生時に適切かつ迅速な意思決定や対応を取るため、訓練として様々な危機的状況を想定し、参加者同士で対応策を検討しておく。

■ 基本の流れ



■ 実施方法

【1】準備

- 課題[素材 1]: 進行役が管理職や学校安全担当者と相談の上、課題を用意します。手渡すことができるよう、カード形式などしておくといでしょう。
⇒ 課題はそれぞれの学校の状況も考慮しつつ、単一もしくは複数の危機状況を示したものを用意しましょう。
- 模造紙、ペン(太字)、ホワイトボード(黒板でも可)、マグネット

【2】進め方

[進め方についての説明]

- 教職員を5~6人ずつのグループに分けます。
- 進行役は、用意した課題を各グループに提示することを予告し、提示された課題について5分間で対応策を決定するよう指示します。
⇒ 各グループに手渡すまでその内容を伏せておきましょう。
- 危機的状況が自分たちの学校で起きるということを前提にして討議するように説明します。

[課題の提示とグループ別活動]

- 各グループの代表者に「課題」を手渡します。
- それぞれのグループは与えられた課題(危機状況)の内容を確認し、その対応を話し合います。
- 話し合い後、実施する対応を模造紙へ太字ペンで書き込みます。
⇒ グループ別活動の活動時間については、慣れるまでは討議5分、書き込み5分のように長めに設定し、慣れるにしたがって短くしていきましょう。

[危機対応の発表と質疑]

- 一つの課題へのグループ別討議を終えるごとに、グループごとに模造紙をホワイトボード等に貼り、代表者が課題とその対応について教職員全員に説明を行います。
- 不明点について質疑を行い、よりよい意思決定がほかにあるかどうか話し合います。
⇒各グループが同じ課題について活動をした場合には、最も優れた意思決定を行ったグループを投票により決定することもできます。
- 発表と質疑が終了したら、進行役は次の課題を各グループに配布して、同じような検討等を繰り返します。

[意見交換（全体振り返り）]

- 最後に、卓上訓練全体を通じた意見を出し合い、さらなる応用の可能性などについて話し合います。

【3】実施のポイント

- 例えば右記のように、訓練の前に危機管理の考え方やマニュアルの内容を復習するなどの活動を含めるとさらに効果的です。
- 校外学習や特別活動に際して、あらかじめ予想される危機状況について卓上訓練を実施することは、万が一に備える上で効果的です。
- ここでは教職員研修での卓上訓練について紹介しましたが、児童生徒を対象とした安全教育において、児童生徒自身が意思決定するための訓練にも応用することができます。

1 危機管理に関する講義（90分）

- ① 子供の犯罪被害の実態
- ② 学校危機管理の考え方
- ③ 安全管理設備について
- ④ 危機管理マニュアルについて
- ⑤ 防犯教育の進め方
- ⑥ 家庭・地域との連携

2 危機管理の卓上訓練（60分）

- ① 卓上訓練の意義について簡単な講義
- ② 卓上訓練の進め方についての説明
- ③ 課題の提示とグループ別活動
- ④ 危機対応の発表と質疑
- ⑤ 意見交換

■ 様式・素材例

[素材1] 課題の例

〈出典：渡邊，2020〉

登校しない児童がいたので保護者に確認したところ、家を出たという返事があった。

児童が下校中に不審者から暴力を振るわれたという知らせが保護者から入った。

休み時間に児童から長い棒を持って校庭を歩いている人がいると連絡があった。

校外学習時に、児童の一人が交通事故に遭ったと、ほかの児童から知らせがあった。

【出典・参考文献】

- 渡邊正樹 「卓上訓練(Tabletop Exercise)を用いた学校危機管理研修プログラム」, 安全教育学研究第5巻 第1号 p.21-p.24 (2005)
- 渡邊正樹 「教職員の危機管理能力を高める-教職員研修としての卓上訓練」, 『学校安全と危機管理三訂版』p.241-p.247, 株式会社大修館書店 (2020)

【実践事例 4】

マップ・マヌーバーの活用

■ マップ・マヌーバーとは

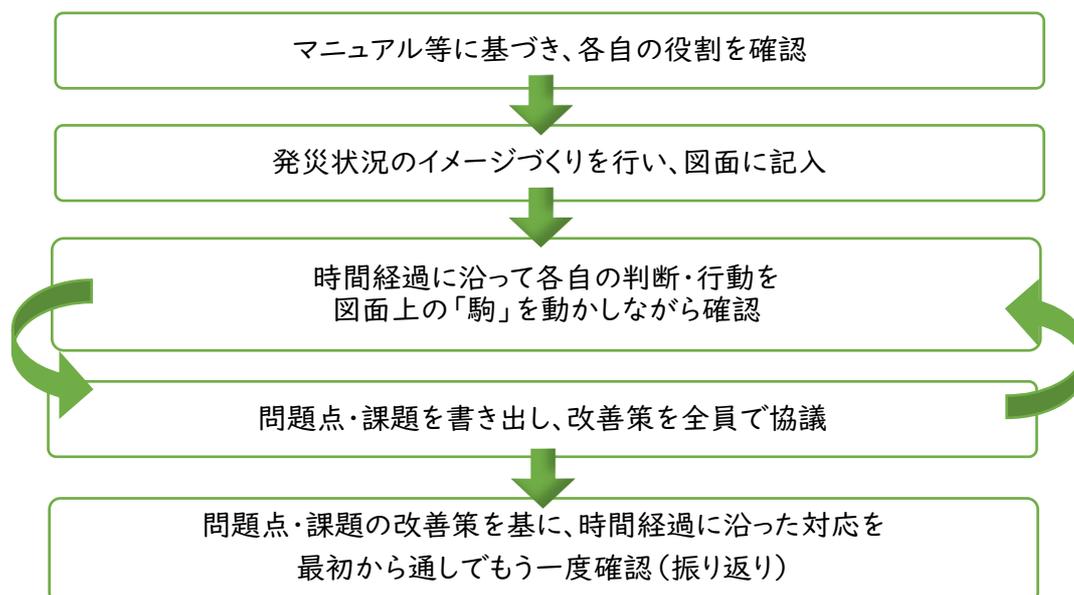
マップ・マヌーバー（Map Maneuver：以下「MM」とします。）は、地図上で個人やグループを表す駒を動かしながら、時間経過に沿って災害時の行動を確認する訓練手法です。もともとは自衛隊の訓練・演習等で、個人や部隊の役割に応じた行動を確認し、全体の動きを把握するために用いられてきました。

MMの手法を用いることで、事故・災害等の発生時を想定して、教職員の動きを時間経過に沿って確認し全体の流れを把握するとともに、行動上の課題等を抽出して、改善につなげることが可能となります。危機管理マニュアル等に記載されている緊急時の動きに沿ってMMを用いた訓練を行うことにより、教職員がそれぞれの役割を確認し、またマニュアルが災害時に機能するものになっているか検証する機会になります。

《この研修・訓練のねらい》

- ◆ 緊急時には個人や組織の動きが複雑になるため、事前に緊急時の行動をシミュレーションして、自らの役割を確認する。
- ◆ 訓練を通して、マニュアルが災害時に機能するかどうかを確認する。

■ 基本の流れ



■ 実施方法

【1】準備

- 事故・災害等発生時の対応マニュアル:MM を使って各自の動きを検証するため、事故・災害等が発生した際の対応に関するマニュアル(いわゆる「危機管理マニュアル」など)を用意します。
- 地図又は自作の図面:MMで駒を動かしながら動きを検証する範囲の地図・平面図などの図面を用意します。模造紙に簡単な図面を自作しても良いでしょう。参加者全員で取り囲んで議論ができるよう、大きめのものを用意してください。
⇒用意する図面の範囲は、MM で検証する事故・災害等の種類などによって異なります。例えば校外への避難を伴う災害等の場合には、避難先を含む地域の地図を用意します。校舎内での対応や校舎から校庭への避難などを検証する場合には、校地・校舎の平面図を用意することが必要です。
- 透明ビニールシート:上記の地図・図面にかぶせて、油性ペン等で書き込むために使います。用意できない場合は、地図・図面に直接書き込んでも構いません。
- 各人を表す駒:10円玉くらいのコインなど。小さな人形を(救急車・パトカーなど車両の動きも想定する場合はミニチュアの車なども)用いると、より“リアル”になります。
- 課題[素材1]:演習課題として付与する状況想定を準備します。
- 課題・対応の整理様式[様式1]:模造紙又はホワイトボード等のように、やや大きなものを準備すると、皆で確認しながら議論しやすいでしょう。
- ペン(中字、太字)、付箋等

【2】進め方

[状況想定と参加者ごとの役割確認]

- マニュアルや付与された課題に基づいて、参加者が自分自身の役割を確認します。
⇒MM は、参加者が自分自身や組織の役割を事前に理解しているという前提で行うため、じっくりと確認作業を行きましょう。
- 参加者の中からリーダー(進行役)を決め、以降はリーダーの進行で演習を進めます。

[被害イメージづくり]

- 付与された課題を基に、まず、その事故・災害等が「発生する直前」の状況について、参加者全員で確認します。
 - ✓ 各参加者は、図面上で自分自身がいる場所を確認し、自分を示す駒を置きましょう。
 - ✓ 参加者以外の人(児童生徒等や、当日の演習に参加していない教職員等)については、付箋に「誰が何人いる」などと記載して、図面上に置いておきます。

- 続いて、課題を基にして、起こり得る被害等のイメージづくりを行いながら、用意した地図・図面に入れていきます。できるだけ具体的に、様々な被害をイメージしてみましょう。
 - ✓ リーダーは、例えば「課題に示される災害が発生したら、学校内はどのような状況になるか、イメージしてください。」などと呼び掛けて、参加者の発言を促します。
 - ✓ 例えば「校舎内のここに、こんな被害が発生する」などという意見が出たら、その内容を付箋に記載して、用意した地図・図面の該当個所に貼っていきましょう。「停電」「断水」「電話回線の不通」などのように図面上の位置には落とせない情報も、余白に貼っておきます。
 - ✓ 地震・津波・土砂災害・洪水などの自然災害を想定した訓練の場合は、市町村等が公表する各種ハザードマップを基に、想定される災害の被災範囲なども記入してもよいでしょう。

[時間経過に沿った行動確認、課題抽出・改善点の検討]

- 続いて、リーダーの進行で、参加者それぞれが時間経過に沿って自分の取るべき対応や行動を図面上で駒を動かしながら確認していきます。
 - ✓ リーダーは、例えば「まず、最初の〇分間で、何をどのように行いますか」などという問い掛けを行って、進行しましょう。
 - ✓ 参加者は、上記の問い掛けを受けて、それぞれ自身の取るべき対応を検討し、順にそれを発表しながら、自分の駒を動かします。
 - ✓ 各自の駒を動かすだけでなく、付箋に記載した参加者以外の動きについても検討し、必要に応じて付箋を動かすなどしてください。
- 駒を動かしながら、このような行動がスムーズにできるのか、状況に適切に対応することができるのかなどを検討し、問題点がないかを確認します。
 - ✓ 先ほど図面に記入した被害イメージを参考にしつつ、その状況下でスムーズに行動できるかどうかを考えてみるとよいでしょう。
 - ✓ リーダーは、図面上に記載した被害イメージを基に、例えば以下のように問い掛けましょう。
 - 「事故・災害により〇〇という状況になっていますが、どうしますか？」
 - 「マニュアルで定められている〇〇の対応は、具体的にどう行動しますか、できますか？」
 - 「もっとたいへんな状況は想定できませんか、災害の影響は他にもありませんか？」等
 ⇒見つかった問題点は、付箋に記入して「問題点・対応の整理様式」の「問題点」欄に貼りましょう。
- 問題点をどうしたら解決できるか、全員で協議して、役割や行動の改善策を考えます。
 - ⇒提案された改善策を付箋に記入し、整理様式の「改善策」欄に貼りましょう。
- さらにリーダーから「では、その後の約〇分間(又は「その次の段階」など)で、どのように行動しますか」など問い掛けて、議論を進めます。これを繰り返すことで、時間経過に沿った一連の動きと問題点の抽出、改善策の検討を進めましょう。

[最終確認・振り返り]

- 時間経過に沿った検討が一通り終了したら、問題点への改善策を取ることを前提として、最初から通して駒を動かしながらシミュレーションしてみます。
⇒改善策実施後の個々人の行動や全体の動きを再確認することができます。
- 「問題点・対応の整理様式」に記載した改善方法を基に、今後の改善点を全体で確認します。
⇒マニュアルのどこをどのように改善するかなど、具体的に検討して、改善につなげましょう。

■ 様式・素材例

[素材1] 課題の例

例えば、次の空欄を埋めるような形で状況想定を作成してください。必ずしも事前に全てを準備する必要はなく、演習の冒頭で参加者とともに状況想定を作成してもよいでしょう。

課題例（１） 平日の日中、授業中の地震発生
● 発生日時： ____月 ____日（ ____曜日） ____時 ____分
● 気象条件： 天気 ____、 気温 ____
● 地震の揺れ： 震度 ____ の激しい揺れが 1～2 分続く
● 外出・休暇などで不在の教職員： _____、 _____、 _____、
● 校庭・体育館の使用状況： 校庭 ____年 ____組が ____で使用 体育館 ____年 ____組が ____で使用
● 特別教室の使用状況： 理科室 ____年 ____組、音楽室 ____年 ____組、 〇〇室 ____年 ____組、〇〇室 ____年 ____組 等
● 校外活動中のクラス： ____年 ____組が ____で校外活動中

課題例（２） 休日の日中、部活動など実施中の地震発生
● 発生日時： ____月 ____日（ ____曜日） ____時 ____分
● 気象条件： 天気 ____、 気温 ____
● 地震の揺れ： 震度 ____ の激しい揺れが 1～2 分続く
● 部活動指導・休日出勤等のため在校中の教職員： ____、 ____、 ____、 ____、 ____、 ____、
● 在庫中の児童生徒等の状況： 体育館： ____部 ____人、 ____部 ____人、 ____部 ____人が活動中 校庭： ____部 ____人、 ____部 ____人、 ____部 ____人が活動中 校舎内： ____部 ____人が ____室、 ____部 ____人が ____室、 ____部 ____人が ____室で活動中

[様式1] 問題点・対応の整理様式

問題点	改善策

【出典・参考文献】

- 岩手県教育委員会 「学校における危機管理マニュアルの見直し」(制作協力:岩手大学地域防災研究センター客員教授 越野修三)(2021.2)

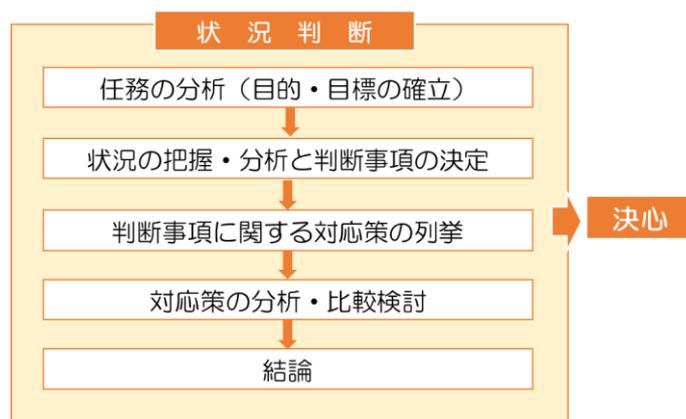
【実践事例 5】

状況判断（ケーススタディ）の活用

■ 状況判断（ケーススタディ）とは

状況判断とは、「目的を達成するために、状況の変化に対応し、当面の状況を分析し、どのような行動を取るのがベストか判断する」ことを指します。

状況判断を用いたケーススタディは、アメリカ軍の戦術教育に用いられてきた「状況判断の思考過程」というツールをアレンジしたものです。アメリカ軍のような大きな組織では、組織の行動が複雑であるとともに、多くの業務を緊急に処理する必要があります。少数の指揮者に依存して状況判断を行うことは難しく、現場に判断がゆだねられる場合も多くなります。そのため、彼らが自然に妥当な結論に到達できるように状況判断のプロセスを標準化しておくことが必要という視点から「状況判断の思考過程」というツールが開発されました。



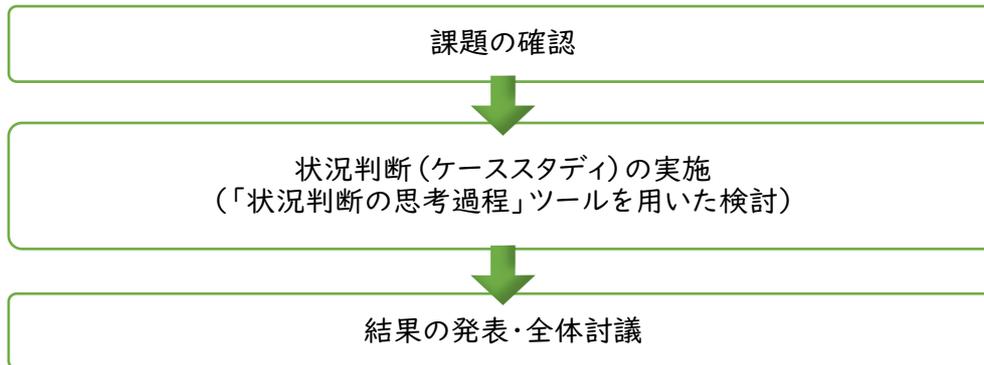
状況判断の思考過程 〈出典：越野，2020b〉

緊急時の学校現場では、これまで経験したことのない状況や情報が限られる状況であっても、冷静な判断が求められます。平時から状況判断の思考過程を用いたケーススタディに取り組むことで、様々な緊急時の状況を想定して、判断を行う際の思考過程を訓練しておくことが可能となります。

《この研修・訓練のねらい》

- ◆ 緊急時には、情報が少ない中でとっさの判断を求められるため、判断時の思考過程を訓練しておくことで、災害対応に対する判断基準や尺度を養う。

■ 基本の流れ



■ 実施方法

【1】準備

- 課題[素材1]: 事故・災害等の発生時において、取るべき対応にいくつかの選択肢がある状況を課題とします。その課題状況について、一般状況と背景を設定します。
 - ✓ 一般状況: 研修参加者がおかれている立場や入手している情報を設定します。
(例) 研修に参加している教職員の状況、入手している情報(気象情報・避難情報等)
 - ✓ 背景: 状況判断のために必要な、その他の情報を設定します。
(例) 児童生徒等やその他の教職員の状況、マニュアルの内容、ハザードマップの記載内容、詳細な気象情報等
- 地域のハザードマップ等: 課題のような状況下で、どのような災害の可能性があるかなどを検討するため、市町村等が公表しているハザードマップや、学校で独自に防災・安全に関する情報を整理したマップ(通学路等点検結果を示したもの等)を用意しましょう。
- 検討用シート: 下記の3種類のシートをグループや個人でケーススタディを行う際に利用します。グループで検討する場合には、付箋に記入した各自の意見を貼れるよう、模造紙などの大きめのシートとするとよいでしょう。
 - ✓ 判断事項の決定用シート[様式1]
 - ✓ 対応策の分析用シート[様式2]
 - ✓ 対応策の比較・検討用シート[様式3]
- 付箋、ペン(中字、太字)等

【2】進め方

[課題の確認]

- 参加者は、いくつかのグループに分かれるか、個人単位で検討します。いずれの場合でも、参加者は、与えられた課題に基づき、どのような対応を取るべきかを判断することが求められます。

⇒通常、学校現場では、校長など管理職が判断を下す役割となっていますので、研修の進行役は、例えば「校長・教頭など管理職が不在の場合を想定しましょう」などと声をかけて、参加者が判断する立場にいることを強調するとよいでしょう。

- グループ又は個人ごとに、課題を記載した資料を配布します。又は、会場のスクリーンに課題を投影してもよいでしょう。
- 参加者は、課題を読み上げるなどして、その内容を確認します。この段階で、若干の質疑応答やグループ別意見交換を行って、課題状況についての認識を深めておく効果的です。また、ハザードマップの内容も併せて確認しておきましょう。

[「状況判断の思考過程」ツールを用いた検討]

- まず、判断事項の決定用シート[様式1]を用いながら、下記の3つのステップで検討します。
 - ✓ 任務の分析(目的・目標の決定):課題として与えられた情報等を基に、自分(たち)がやらなければならない任務(ミッション)は何かを考えて、何のために(目的)、何を実行するのか(目標)を決定します。

⇒一般に目標を設定する際には、①必ず達成しなければならない目標、②望ましい目標、③時期的な優先順位なども併せて検討しますが、ここでは、比較的簡便な方法として「必ず達成しなければならない目標」に絞って考えるとよいでしょう。

(目的によっては、「望ましい目標」を設定する必要がある場合もあります。)
 - ✓ 状況の把握と分析:課題として与えられた情報や、危機管理マニュアル等に定められている事項などを基に、①現在の状況はどのようになっているかを「状況の把握」欄に、②そこから想定される今後の状況進展や問題点を「状況の分析」欄に、それぞれ記入します。
 - ✓ 判断事項の抽出:以上の検討を踏まえて、今、この状況で何を判断すべきなのか、判断事項を決めましょう。

⇒何を判断するかわからない場合、当面する状況が目標とどのようなギャップがあるか徹底して掘り下げてみると、解決すべき問題は何かということが明らかになってきます。
- 続いて、対応策の分析用シート[様式2]を用いて、対応策の列挙・分析を行います。判断事項について考えられる対応策の選択肢を挙げた上で、それぞれの対応策のメリット、デメリットを挙げていきましょう。また、デメリットがある場合には、それに対する対策を(その対策が容易に実施可能かどうかも含めて)検討し、記載しましょう。
- 上記の分析結果を基に、対応策の比較・検討用シート[様式3]を用いて、次のステップで検討して、複数の対応策を比較、取るべき対応を決定します。
 - ✓ 比較要因の設定:基本的には上記分析で出されたメリット・デメリットを基に、各対応案を比較するための要因(比較要因)を整理して、「比較要因」の欄の一つずつ記載します。

※比較要因としては、例えば「目標達成の確実さ」「対策に要する労力・時間」「対策の実施可能性（容易性）」「対策の副次的効果（副作用）」などの観点があります。対応策分析シートに記載したメリット・デメリットを、このような観点で整理するとよいでしょう。

- ✓ 対応策の評価: 上記で整理した比較要因を踏まえて各対応策を○△×で評価して、評価欄に記入します。
- ✓ 最良案の決定: 比較要因ごとの評価結果を踏まえて、対応策の選択肢の中から最も良いと考えられる対応策（最良案）を決定します。

※検討に当たっては、複数挙げている比較要因の中で、何を最も重視すべきかを考えます。

同じ○印の評価であっても、重視すべき要因とそれ以外の要因とでは、○印の重みが異なります。そのような要因間の優先順位も考慮して、最良案を決定するようにしましょう。

⇒結論として、最良案の具体的な事項（誰が、何を、いつ、どこで、いかに、何のために）を明確にしましょう。

[結果の発表・全体討議]

- 各グループ（又は個人）の検討結果を発表した上で、全体で議論しましょう。

⇒全体討議として様々な観点から議論を深めることで、災害時に状況判断を行う際の判断基準や尺度についての共通認識の構築につながります。また、必要に応じて、議論の結果を危機管理マニュアルなどに反映しておくとい良いでしょう。

【3】実施のポイント -----

- 災害時には情報が限られてしまうため、断片的な情報をつないで、将来の状況を予測する必要があります。その際、自らの先入観や固定観念に縛られてしまわないためにも、ケーススタディを活用し自らの経験や知識が正しいかどうか常に反省し、客観的に検討を続けることが重要です。

■ 様式・素材例

[素材1] 課題の例 「授業中の豪雨」 〈出典：越野，2020a〉

一般状況	<ul style="list-style-type: none"> ● Y小学校（在校生 300 人）の S 校長は、校長室で執務中である。 ● 10 時頃から非常に激しい雨が降り続いてしたが、午後の授業が開始した時点で K 気象台から大雨洪水警報と土砂災害警戒警報が発令されていることを知った。 ● K 市からは避難指示等はまだ発令されていない。
背景	<ul style="list-style-type: none"> ● 各学年は 2 クラス（1 クラスは 25 名）で、全ての学年は午後の授業を開始した直後で、職員室には、副校長と、2 名の教員が執務中である。 ● Y 小学校は、大雨・洪水時の避難指示等が発令された場合は、K 市の避難所に指定されており、住民に避難所として体育館や教室等を解放しなければならない。 ● 学校のマニュアルでは、避難指示等の発令される恐れがある場合は、保護者に引き渡すか、休校することになっている。 ● 生徒の通学経路上には、中小河川の橋や土砂災害警戒区域を通らなければならない箇所が多数ある。 ● 現在、学校周辺の川の水位は氾濫するほどではないが、かなり水位は高くなっている。 ● 気象台からは、K 市周辺に線状降水帯が発生し、しばらくは激しい雨が続く模様であるとの予報が出ている。

[様式1] 判断事項の決定用シート 〈出典：越野，2020a を基に作成〉

必ず達成しなければならない目標	
状況の把握	状況の分析
判断事項（何を判断するか？）	

[様式2] 対応策の分析用シート

〈出典：越野，2020a を基に作成〉

対応案	利点（メリット）	欠点（デメリット）	対 策
A 案 aaaaaaa 対応案 を記入			
B 案 bbbbbbb			

[様式3] 対応策の比較・検討用シート

〈出典：越野，2020a を基に作成〉

選定要因	要因①	要因②	要因③	要因④	要因⑤
対応案	比較要因を一つずつ記入				
A 案 aaaaaaa	比較要因ごとに、○・△・×で評価して記入				
B 案 bbbbbbb					

【出典・参考文献】

- 越野修三 「想定外の状況における危機管理の在り方」, 独立行政法人教職員支援機構 令和 2 年度学校安全指導者養成研修 (2020a)
- 越野修三 「有事のプロに学ぶ 自衛隊式 自治体の危機管理術 非常時に動ける組織をつくる」, 株式会社ぎょうせい (2020b)

ASUKA モデルの活用

ASUKA モデルとは

平成 23 年 9 月 29 日、さいたま市立小学校 6 年生の桐田明日香さんが、駅伝の課外活動中に倒れ、翌 30 日に亡くなるという事故が起きました。さいたま市教育委員会は、この事故をめぐる対応の在り方について分析し、その結果を基に再発防止のための教員研修用「体育事故時等における事故対応テキスト」を作成しました。出来上がったテキストには「ASUKA モデル」という愛称がついています。

テキストでは、重大事故の予防から現場対応、事後対応まで取るべき行動を 4 つの柱に分けて示しています。最も特徴的な項目として、傷病者発生時における判断・行動チャートがあります。従来のマニュアルでは、傷病者発生時の判断基準として、意識やふだんどおりの呼吸が「ある」「ない」という選択肢が記載されますが、これを「ない」「わからない」とすることで、迷った場合は直ちに次の行動(119 番通報、AED の手配、胸骨圧迫)に移るよう強く求めた内容となっています。加えて、「死戦期呼吸」やけいれんについて重視し、心停止

でない人に胸骨圧迫を行ったり AED を使用したりしても大きな問題は起こらないこと、判断ができない場合や自信が持てない場合は胸骨圧迫と AED の使用を開始することが強調されています。

《テキスト「ASUKA モデル」の構成》

〈出典：さいたま市教育委員会，2012〉

I 日常における重大事故の未然防止

○教職員等の危機管理に関する意識や資質の向上

- 重大事故発生時対応訓練や心肺蘇生法に関する研修等の実施
- 普通救命講習Ⅰ、応急手当普及員講習会の受講
- 計画策定時のリスクマネジメントとしての「危険想定」
- 体育活動時における重大事故シミュレーションの実施
- 児童生徒を対象とする AED の使用を含む心配蘇生法の実習の実施
- 保護者を対象とする AED の使用を含む心配蘇生法講習会の実施

○危機管理体制の整備

- 重大事故等を想定したマニュアルの作成及び定期的な見直し
- ウォーミングアップの徹底
- 近隣医療機関との協力体制の強化
- 「傷病者発生時における判断・行動チャート」の作成
- 口頭指導に対応する記録用紙の活用
- 児童生徒の健康に関する情報の把握及び共通理解
- 保健室環境の整備
- 重大事故発生時携行機材等のパッケージ化
- 携帯電話等の所持
- 緊急搬送にかかわるスペースの確保

○自己の健康管理に関する指導

II 体育活動時等における重大事故の未然防止

○指導開始前のブリーフィング

○指導終了後のブリーフィング

III 重大事故発生時における対応

○第一発見者としての対応

○応援者としての対応

IV 事故発生後の対応

○事実確認と分析

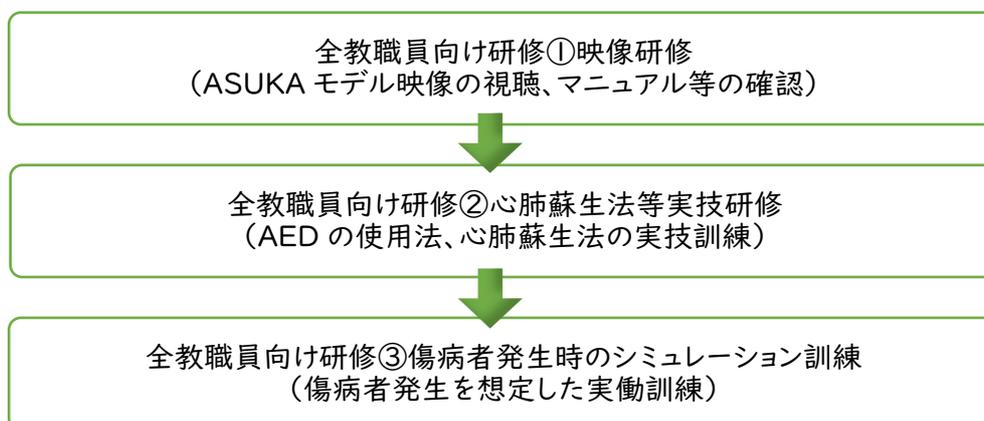
○傷病者等への対応

ここでは、この ASUKA モデルを活用した教職員研修や実践的な訓練の実施方法について紹介します。

《この研修・訓練のねらい》

- ◆ ASUKA モデルのきっかけとなった事象事例等を基に、学校における迅速・的確な救命処置の重要性について学ぶ。
- ◆ ASUKA モデルで示されている傷病者発生時の判断・行動について、実践的な訓練を通じて身に付ける。

■ 基本の流れ



■ 実施方法

【1】準備

- Youtube 動画の閲覧機材 (PC など) :映像を用いた研修を行う上で使用します。
- 訓練用 AED、心肺蘇生訓練用機材、エピペン®練習用トレーナー :心肺蘇生法等の実技訓練を行う際に使用します。消防署などで訓練用機材の貸し出しや指導員の派遣等を行っている場合が少なくありませんので、近隣の消防機関等に相談するとよいでしょう。
- 訓練想定 :傷病者発生を想定したシミュレーション訓練を行う際に設定する、各種想定です。
 - ✓ 課題[素材1] :発生した事故の状況想定です。
 - ✓ 連絡先電話番号 :119 番通報、保護者への連絡などを実際の電話を用いて行う場合は、訓練用の電話番号を設定します。保護者の電話番号は、あらかじめ訓練参加者に教えておくのではなく、本来その情報が保管されている箇所にメモを置いておくと、より実践的となります。

- ✓ 救急隊到着状況:119番通報の何分後に、どこに到着するか設定しておきます。実際に到着する場所ではなく、校舎内の特定の箇所を模倣的に指定しておいてもよいでしょう。
- 振り返りシート[様式1]:シミュレーション訓練の参加者に記入してもらうことで、訓練結果を検証し、マニュアルやAEDの保管・管理方法などの改善につなげます。

【2】進め方

[全教職員対象研修① 映像研修]

- まず、ASUKAモデルの映像を見て、傷病者発生時の対応に関する理解を深めましょう。
[本編映像] (様々な重大事故の事例が盛り込まれています)
<https://www.youtube.com/watch?v=jpMpvZ6q04M&feature=youtu.be>
[ダイジェスト版映像]
<https://www.youtube.com/watch?v=jTDw3-FkHX4&feature=youtu.be>
- 続いて、傷病者発生時の対応について定めている自校のマニュアル(危機管理マニュアル等)の内容を確認します。映像で見た事例を参考に、自校で重大事故が発生した場合にどのような対応をすればよいのか、事前にどのような確認が必要か等を議論しましょう。
※人数が多い場合は、グループ別に討議した上で、その結果発表と全体討議を行いましょう。

[全教職員対象研修② 心肺蘇生法等実技研修]

- AEDの使用法、心肺蘇生法などを体得する訓練を実施して、それらの方法を身に付けます。
※次に実施するシミュレーション訓練の前に、まず機材の使い方や心肺蘇生法などの基礎的な実技能力を身に付ける必要があります。

[全教職員対象研修③ 傷病者発生時のシミュレーション訓練]

- 課題を基に、自校の危機管理マニュアル等に基づいて、重大事故が発生した場合の実際の動きを確認するための対応訓練を実施します。
- まず、課題に基づき、例えば、下記のような配役を決めます(必要な配役は「想定事故」の内容によって異なります)。教職員役の人は、危機管理マニュアル等で発生時に取るべき対応を確認しておきましょう。
 - ✓ 被災者(突然倒れた児童生徒等)の役
 - ✓ 第一発見者の役:児童生徒等、又は教職員など、設定を決めておきましょう。
 - ✓ 他児童生徒等(その他、被災者の周辺にいた児童生徒等)の役
 - ✓ 発生場所近くにいる教職員の役
 - ✓ その他の教職員(職員室にいる教職員、保健室にいる養護教諭など)の役
 - ✓ 消防機関(119番通報を受信)、救急隊員(救急車で到着)の役
 - ✓ その他:保護者、教育委員会関係者、等、必要に応じて設定しましょう。

※「その他の教職員」役には課題の内容を知らせず訓練を実施することで、より実践的な「シナリオ非提示型」の訓練とすることもできます。

- 進行役（訓練運営担当）の合図で、訓練を開始します。
⇒「被災者」役は、課題の設定に従い、そのようすを演じます。それ以外の参加者は、それぞれの役に応じて、危機管理マニュアル等に定められた対応に従って模擬的に行動します。
- 一連の対応が終わったら、「振り返りシート」を用いて振り返りを実施します。
⇒役割別などのグループに分かれて議論した上で、発表・全体討議を行うとよいでしょう。

【3】実施のポイント

- 学校では傷病者の第一発見者が児童生徒等である可能性が高いため、教員向けの研修・訓練と並行して、児童生徒等に対する心肺蘇生法の訓練や講習会を行うことが効果的です。

■ 様式・素材例

〔素材1〕課題の例

〈出典：さいたま市教育委員会，2020〉

例1 持久走後の 心肺停止	校内持久走大会で、小5男子（既往症なし）が1000m（200m×5周）を走った後に倒れるところを、ゴール地点で計測係をしていた6年担任が目撃する。 校庭には200名の児童、100名ほどの保護者がいた。
例2 給食時間の アナフィラキシー	給食の時間中、小3女子（食物アレルギーあり、原因食物：牛乳）が自席で給食を食べていたところ、食べ始めて5分後に咳込み、息苦しいと担任に訴えた。 児童には緊急時薬とエピペン [®] が処方されており、ランドセルの中に常時保管されている。
例3 水泳中の 心肺停止	水泳の授業で、小6男子（既往症なし）が準備運動、水慣れなどを行った後、50mの泳力調査を行った。スタート後、10m付近で突然動かなくなり沈みだした。事故発生に気付いた教員が、プールサイドに引き上げた。男児に反応はなく正常な呼吸が見られなかった。
例4 運動会練習中の 熱中症	校庭でのダンス練習中、休憩後、集合の指示を出したがうずくまっていた整列にこない中2男子（既往症なし）がいた。 声をかけたが、「頭が痛い、気持ち悪い」と言い、錯乱状態で自分では立ち上がれない。自力で水を飲めない。汗は乾いており、腕や首を触ると熱い。
例5 給食中の窒息	給食中、小3女子が白玉団子をのどに詰まらせたらしいと、当該女児の隣席の児童が担当に知らせに来た。 女児は、のどを両手でつかみ、苦しそうにしていた。担任は、声をかけ、吐くように言ったが、女児は首を横に振り、吐けないとサインを送ってきた。やがて、はっきりとした応答がなくなってきた。

[様式1] 振り返りシートの例

〈出典：近畿管区行政評価局，2020 に示される A 教委作成資料を基に一部改変〉

	項目	気付き ・ 問題点
環境・ 機材等	AED 設置場所・保管方法	
	エピペン®設置場所・保管方法	
	緊急持ち出し袋	
	保健室の鍵保管	
	保健調査票の保管	
	家庭調査票の保管	
傷病者 他生徒 対応	応援要請・召集方法	
	心肺蘇生の手技	
	AED 操作方法	
	エピペン®使用方法	
	気道異物除去処置	
	傷病者への配慮	
	他生徒対応	
消防 対応	119 連絡手段	
	119 通報内容	
	救急車誘導	
	救急隊対応	
保護者 対応	連絡手段	
	連絡内容	
情報 収集	記録方法・記録用紙	
	管理職報告	
統括 連携	現場統括	
	職員室統括	
	現場と職員室連携	
その他 課題		

【出典・参考文献】

- さいたま市教育委員会 「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKA モデル～」(2012)
<https://www.city.saitama.jp/003/002/013/002/p019665.html>
- さいたま市教育委員会 「令和2年度 危機管理体制の整備について」(2020)
- 桐淵博・他 「『ASUKA モデル』と小学校からの救命教育の推進」-学校における BLS 教育(救命教育)の推進と学校安全の向上に寄与する教員養成カリキュラムの開発-」(2020)
https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/Kiribuchi_report.pdf
- 近畿管区行政評価局 「学校における救命活動に関する調査 -AED の使用を中心として- 結果報告書」(2020) https://www.soumu.go.jp/main_content/000677478.pdf
- 公益財団法人日本AED財団 「学校での緊急時対応計画:EAP」
https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/School_EAP.pdf

実践的な不審者対応訓練

■ 実践的な不審者対応訓練とは

大阪府池田市にある大阪教育大学附属池田小学校では、教職員の危機管理意識の高揚と対応能力の向上を目指して、全教職員が参加する不審者対応訓練を定期的に行っています。

この訓練のポイントは、「授業中に1階から入られた」「休み時間に運動場で不審者を発見した」などと、様々な場面を設定していることです。こうした設定の詳細は、訓練参加者である教職員には知らされず、教職員間の役割分担を固定化しないことから、より現実的な訓練であると言えます。

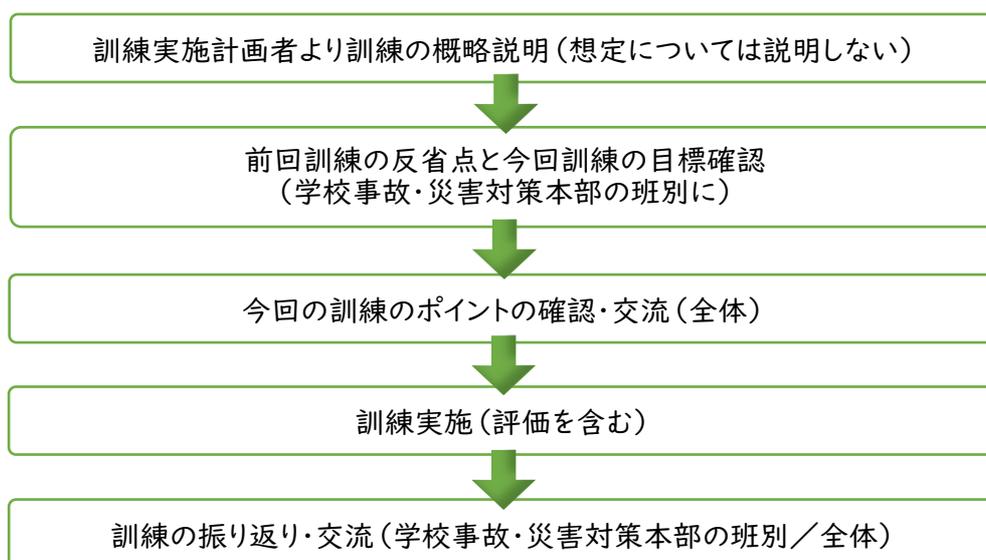
また、訓練前後の話し合いを重視していることも特徴です。訓練前には前回反省の振り返りと当日の目標設定、訓練後には目標達成度や新たに出てきた課題について話し合いを行います。

ここでは、この池田小学校での取組を参考に、実践的な不審者対応訓練について紹介していきます。

《この研修・訓練のねらい》

- ◆ 学校危機管理に対する意識を高め、維持継続していく。
- ◆ 学校で事件あるいは災害が起こった場合の対応の仕方（連絡体制、応急処置の方法など）について、訓練を通して協議し、学び合う。
- ◆ 学校で事件あるいは災害が起こった場合、冷静に対応できる心構えを養う。
- ◆ 教職員間の意見交流を通して、安全を重視していく態度を維持継続していく。

■ 基本の流れ



■ 実施方法

【1】準備

- 課題: 訓練実施計画の担当者は、課題の例(素材1)を参考に、今回の訓練をどのような想定及び流れで実施するかを決めます。以下のような観点から状況を設定することで、様々なシナリオを作成するとよいでしょう。

[訓練想定 of 観点]

- ✓ 発生時間帯等の想定(授業中/休憩時間等、児童生徒等は教室等に所在/バラバラ)等
- ✓ 不審者の侵入場所、移動経路、対面場所
- ✓ 不審者の動き(強行突破あるいは口だけで脅す、凶器の有無等)
- ✓ 負傷者の場所、ケガの程度、人数
- 不審者侵入事案発生時のマニュアル(危機管理マニュアルの該当部分等): 訓練前後の話し合いで確認し、目標や課題を抽出するのに活用します。
- 前回訓練の反省点に関する資料: 訓練前の話し合いで確認し、訓練の目標を設定するのに活用します。
- 役割分担: 教職員として対応する参加者のほかに、以下の役割を想定に応じて設定します。
 - ✓ 不審者の役
 - ✓ 児童生徒等の役: 教育実習生が参加する場合には、教育実習生を充ててもよいでしょう。
 - ✓ 警察(110番通報先、駆け付けた警察官)の役
 - ✓ 救急隊(119番通報先、駆け付けた救急隊員)の役
 - ✓ 保護者の役

- 連絡先電話番号:110 番通報、119 番通報、保護者への連絡などを実際の電話を用いて行う場合は、訓練用の電話番号を設定します。保護者の電話番号は、本来その情報が保管されている箇所にメモを置いておくと、より実践的となります。
- “けがの症状”カード:負傷者役が訓練中に不審者役から受け取ることで、不審者によって受傷したことを模擬するためのカードです。

【2】進め方 -----

[訓練の流れ及び役割の確認]

- 訓練実施計画者から訓練の概略説明を行って、おおまかな流れをつかんだ後、参加者は危機管理マニュアル等を基にそれぞれの役割を確認します。
- 不審者役・負傷者役・警察役・救急隊役・保護者役を割り当てられた職員は、訓練実施計画者から訓練の想定を与えられ、訓練の流れとともに自身の動きを確認します。

[訓練目標の確認（役割別／全体）]

- 危機管理マニュアル等で定められている学校事故・災害対策本部の班別にわかれて、前回訓練の反省点について振り返ります。さらに、危機管理マニュアルで検証したい事項などを踏まえて、班ごとの今回訓練の目標を設定・確認します。
- 全体で今回の訓練のポイントを確認します。

[訓練の実施]

- 課題に基づき、全教職員が危機管理マニュアル等に定められている対応を模擬的に実施します。その場の状況に応じて、臨機応変に対応するようにしましょう。
- 負傷者が発生する想定の場合には、不審者役が負傷者役に“けがの症状”カードを渡すことで負傷者発生したこととなります。それぞれの参加者は必要な対応（例：応急手当、119 番通報等）を行いましょう。

[訓練の振り返り・交流（役割別／全体）]

- 学校事故・災害対策本部の班別にわかれて、事前に設定した訓練目標が達成できたかどうかの視点を中心に、訓練の振り返りを行います。また、次回訓練に向けて反省点を取りまとめます。
- 教職員全体で意見交流し、共通認識を持ちます。
- 外部機関（警察署等）の参加がある場合には、訓練の講評及び指導を受けます。

【3】実施のポイント -----

- 教職員は課題の詳細を知らされずに訓練を行うことで、その場での状況判断を必要とされ、より実践的な訓練となります。
- 訓練前後の話し合いを重視し、訓練目標の明確化、達成度の確認や新たに出てきた課題の確認等について、共通認識を得ます。

- 役割分担は固定化せず、年度ごとに交代して、様々な役割を経験するようにします。どのような状況で事件・事故に遭遇しても対応可能なようにするためです。
- 教職員のうち数名を訓練評価者としたり、外部機関（警察署等）に訓練の様子を観察・指導してもらったりする機会も取り入れるとよいでしょう。

■ 様式・素材例

[素材1] 課題の例

〈出典：文部科学省「学校における防犯教室等実践事例集」に記載の大阪教育大学附属池田小学校訓練事例を基に作成〉

訓練の設定	趣旨やねらい
【基本形】授業中、不審者が校舎内に侵入したと想定した訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者の構内侵入から、負傷者の搬送までの全体的な動きを把握する。 ・訓練担当者以外の全員が危機管理マニュアルに指定された役割に従って、基本的な行動について把握する。
不審者に直面してしまったと想定した訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者に直面した場合における対応の仕方を学ぶ ・不審者を児童から離れた所に留め、時間を稼ぐとともに、校舎の奥まで不審者を侵入させない方法を学ぶ。 ・不審者に直面した際に使う物（棒など）の使い方を学ぶ。
教職員と教育実習生で行う訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・児童（教育実習生）を安全かつ確実に、そして落ち着いて避難させるための方法（指示や連絡体制など）を訓練から学ぶ。 ・所在や行動の予想しにくい児童（教育実習生）への避難指示、安全確認を確実に行う。
外部機関（警察署）を招いた研修	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の専門家に実際の訓練を見ていただき、指導をしていただくことで、不審者に対応する能力を高める。 ・不審者に対応するための専門的な知識（自分自身の身も守ることなど）を学ぶ。

【出典・参考文献】

- 文部科学省「学校における防犯教室等実践事例集」（H18.3）
https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1298807.htm
 第5部「教職員対象の不審者対応訓練—危機管理意識の高揚と対応能力の向上を目指して—」（大阪教育大学附属池田小学校訓練事例）
 ※大阪教育大学附属池田小学校が作成した「学校安全の手引き」および「不審者対応訓練の映像資料」については、同校のウェブサイトで公開されています。
<http://f-ikeda-e.oku.ed.jp/home/>

【実践事例 8】

実践的な避難訓練等の工夫例

考えて行動する避難訓練

〈出典：文献 a〉

- 避難経路の安全性を確認するため、トランシーバーを用いて教職員が連絡を取り合いながら情報共有して、二次避難につなげる。
- 想定外・不測の事態への対応を模擬するため、避難経路に障害物を設置する。

映像を活用した振り返り

〈出典：文献 a〉

- 訓練後の振り返りに際して、訓練の様子を撮影した動画を見ながら意見交換を実施する。

複数校で一斉抜き打ち訓練

〈出典：文献 b〉

- 同一町内の3校が、同日同時刻に地震を想定した一斉抜き打ち訓練を実施(イベント化することで継続的な実施を期待)。

緊急地震速報の模擬訓練

〈出典：文献 c〉

- 緊急地震速報受信システムの「訓練モード」を利用して、実践的な地震対応訓練を実施。

前回訓練の反省を踏まえた訓練内容

〈出典：文献 d〉

- 前回の防災訓練の反省を活かし、初動対応のロールプレイ訓練を実施し、職員室内の防災・防犯に関する放送設備・通報設備を一つずつ確認。
⇒担当者以外は設備の存在や使い方を知らなかったため、有意義な訓練となった。

映像学習による危機意識

〈出典：文献 d〉

- グループ別ワークショップ(マニュアル内容や緊急時の動きを確認)の前に、ガラスが割れる実験動画や東北地方太平洋沖地震発生時の映像を視聴。

避難先を変更した訓練

〈出典：文献 e〉

- 前年度に初めて水害を想定した際には近隣他校への水平避難を実施したが、2年目は校舎3階への垂直避難を実施。

中核となる担当者の不在を設定した訓練

〈出典：文献 f〉

- マニュアル上で指令系統となっている担当者は全員不在という設定で、実施日時を知らせない抜き打ちの避難訓練を実施。

生徒参加訓練の前にプレ訓練を実施

〈出典：文献 f〉

- 生徒参加の避難訓練前に「プレ訓練」を実施し、避難誘導を模擬するために、生徒役のぬいぐるみを運搬。

不測の事態を想定した引渡し訓練

〈出典：文献 g〉

- 「想定していた2次避難場所が危険な場合」「敷地内で車の渋滞が発生する場合」など、発災時に起こり得る不測の事態を細かく想定し、その都度対応を変える引渡し訓練を実施。

第三者による避難訓練の評価

〈出典：文献 h〉

- 避難訓練チェックリストを基に、保護者や地域住民、他校の学校安全担当教諭などが避難訓練を評価。

【出典】

- a) 京都市 「『学校安全総合支援事業』～学校安全推進体制の構築～(京都市の取組について)」, 令和2年度「学校安全総合支援事業」全国成果発表会配布資料
- b) 群馬県 「中核教員の資質向上に関する取り組みについて」, 平成 30 年度「学校安全総合支援事業」全国成果発表会実践発表資料
- c) 熊本県 「地域へ、全国へ、そして未来につなげる熊本県の防災教育」, 平成 30 年度「学校安全総合支援事業」全国成果発表会実践発表資料
- d) 目黒星美学園中学高等学校 「生徒が活躍する『わくわく防災減災』-生徒の自助力を高めて、地域と連携する私立学校のモデルケースを目指す-」, 2018 年度防災チャレンジプラン実践団体最終報告書
- e) 千葉県立矢切特別支援学校 「『みんながわかるいお天気学習』～雲レーダーを活用した水害対策と気象学習～」, 2017 年度防災チャレンジプラン実践団体最終報告書
- f) 名古屋市立中央高等学校昼間定時制 「セカンドステップ～防災教育の新たな芽～」, 2016 年度防災チャレンジプラン実践団体最終報告書
- g) 埼玉県立日高特別支援学校 「日高特支 車椅子の子どもたちを守る!防災力向上計画」, 2014 年度防災チャレンジプラン実践団体最終報告書
- h) みやぎ避難訓練指導パッケージ作成委員会 「みやぎ避難訓練指導パッケージ PDCA サイクルをいかした避難訓練チェックリスト」

本冊子は、「令和2年度 学校安全総合支援事業(学校防災の取組の質向上・実践性向上の方策等についての調査研究)」の成果として取りまとめたものです。

学校防災の取組の質向上・実践性向上の方策等についての調査研究

有識者会議 委員

(敬称略・五十音順・◎印：座長)

※肩書は令和3年3月現在

桐淵 博 公益財団法人日本AED財団 理事

越野 修三 岩手大学 地域防災研究センター 客員教授

藤田 大輔 大阪教育大学 健康安全教育系 教授

吉門 直子 高知県教育委員会事務局 学校安全対策課 企画監

◎ 渡邊 正樹 東京学芸大学 教職大学院 教授

学校安全推進のための教職員向け研修・訓練実践事例集

令和3年6月

発行者 文部科学省総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
安全教育推進室
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

編集 株式会社社会安全研究所





文部科学省

